

平成23年度 研究発表会

発表概要

〔全体講演会〕

命をつなぐ

－水族館でイルカを育てる－

鴨川シーワールド獣医師 勝俣 悦子 氏

水族館で生活する海の動物たちの役割は、展示やパフォーマンスをとおして、訪れる人々に海と海に住む動物たちの生態、能力、美しさを伝えることである。

彼らを健康に飼育できればやがて繁殖し、それぞれの子育てを身近に観察することができる。講演では、イルカやシャチ、セイウチなどの繁殖までの道のり、生まれた子の育成の難しさなどについて述べたい。



〔分科会Ⅰ〕

学んだことを豊かに活かしていくことのできる力の育成

－「習得」・「活用」をとおして－

【総合教育センターカリキュラム開発部研究開発担当】

1

中央教育審議会答申では、子どもたちに「確かな学力」を育成するために、各学校で取り組むべきこととして、「学習指導要領に示された共通に指導すべき基礎的・基本的な学習内容の確実な定着」や「教えて考えさせる指導を徹底し、基礎的・基本的な知識・技能の習得を図ることが重要」と述べている。しかし、具体的にどのような授業づくりを行っていけばよいかは述べられていない。そこで本研究では、この「教えて考えさせる指導」に焦点をあて、確かな習得を図るための授業づくりの進め方を調査研究し報告する。

理科の有用性を実感する指導方法の調査研究

【総合教育センターカリキュラム開発部科学技術教育担当】

2

本研究では、理科の有用性を実感する効果的な指導方法についての調査研究を行った。指導方法として5つのプランを提示し、それに基づき小・中・高校で授業を行い、児童生徒が理科の有用性を実感できたか、意識調査を中心とする検証を行った。その結果を考察し、本調査研究の成果と課題について発表する。

〔分科会Ⅱ〕

高等学校における学びを支えるための実践的研究

－研究協力校での指導・支援の実践と検証をとおして(Ⅱ)－

【総合教育センター特別支援教育部】

- 1 高等学校において、学習上や行動上に困難のある生徒に対してどのような指導や支援が必要かつ有効なのかについて、3年間取組んできた調査研究を報告する。気付きから具体的な指導や支援までの流れ、「行動の気になる生徒のチェックリスト」（高校生用）や「学びを支えるための授業チェックシート」の活用、関係機関との連携の在り方等について提案する。

『個の学び』と『協働的な学び』の創造を図るICTの効果的な活用

－無線LAN環境における児童生徒の一人一台タブレットPCの活用をとおして－

【総合教育センターカリキュラム開発部メディア教育担当】

- 2 文部科学省が公表した「教育の情報化ビジョン」では、「21世紀にふさわしい学びの環境とそれに基づく学びの姿の例」として、普通教室における無線LANと児童生徒一人一台の情報端末の活用が示されている。個別学習や協働学習における情報通信技術の効果的な活用について、今話題のタブレット型情報端末を活用した授業実践事例を紹介するとともに、その成果と課題について報告する。

〔分科会Ⅲ〕

見立て力の向上とその力をもって行う包括的な支援について

【子どもと親のサポートセンター支援事業部】

- 1 子どもたちを取り巻く状況は、社会の影響を受け複雑化しており問題行動への対処や支援を一層困難にしている。子どもへのより効果的な指導・支援を行うためには、幅広い視点での確かな見立てを行うことが必要となる。見立て力の向上を図るための「見立てシート」、学校が見立てを行う際に必要な視点を整理するための「気になる子チェックシート」について、学校支援の事例を通して提案する。

教員の資質能力の向上を図る能動的自立研修の活性化に関する研究

【総合教育センターカリキュラム開発部研究開発担当】

- 2 本研究は、教員の資質能力の向上を図るための能動的自立研修の具体的な方策を示し、研修の活性化に資することを目標としている。具体的には研究期間を3年間とし、平成26年3月を目途に「自立研修を活性化するための手引き（仮称）」の作成を目指す。初年度である今回は、研究の基本的な考え方（自立研修の基本構想）と教員の資質能力に関する調査研究（資質能力の捉え方、自己評価）について発表する。